

PD1 「当院における緊急内視鏡業務の現況と技士の役割」

独立行政法人 労働者健康機構 釧路労災病院

臨床工学技士 大江 悠輔

【はじめに】

当院内視鏡室は内科医師 14 名、看護師 13 名、臨床工学技士 8 名で構成されており、年間 1 万件以上の内視鏡検査を実施している。臨時内視鏡検査の件数は約 200 件である。当院は 24 時間体制で臨時内視鏡検査に対応し、全ての内視鏡検査に臨床工学技士が関わっている。今回は臨床工学技士が 24 時間体制でどの様に臨時内視鏡検査に関わっているのかを、今までの現況を含め報告する。

【現況】

夜間、祝日の緊急内視鏡は 2019 年度 213 件、2020 年度 170 件と多くの検査が行われている。夜間祝日は医師 1～2 名、看護師 1 名、臨床工学技士 1 名と限られた人数で対応していかなければならない。この状況の中でも、医師にはスムーズに検査を実施してもらえよう働きかけを臨床工学技士はしている。例えば、臨時で多いのはイレウス、吐下血、ERCP、異物除去で、それぞれの

処置具や、高周波装置などをあらかじめ準備を実施し、医師に待機する時間を作らせないように心掛けています。また、看護師と臨床工学技士間のコミュニケーションによっても検査がスムーズに実施できるかどうかが決まってくるため、日頃からの様に患者様と関わっているのかを観察し、何を必要としているのかを考え行動している。

【まとめ】

現在の緊急内視鏡における対応は十分であるとは言いがたい。しかし、その中でもいかに柔軟に対応できるかが肝心となってくるため、日々の業務の中で積極的に医師の介助に付き医師がどのように介助して欲しいかを学ぶ事や、高周波装置を使用する際にトラブルが起こらないように、日常の保守点検を実施していくことで、検査をスムーズに実施し患者様にとって安心安全な治療が出来るのではないかと考える。